［制作記録］

ダンボール展 アーカイブ２

Exhibition of Cardboard Archive vol. 2

工藤　俊之
KUDO Toshiyuki

そばに転がっていた素材で気がついた

入社した広告制作会社で、私はアートディレクターとしてカメラマンやイラストレーターと一緒に仕事させていただきました。

数年後その会社の美術部（日本で最初に出来た広告制作会社なのでデザイナーの部はこう呼ばれていた。カメラマンは写真部、コピーライターは企画部、今も同じです。）で展覧会を開催することになりました。

1980年代の広告や雑誌ではカメラマンやイラストレーターの力を借りて仕事をしていました。展覧会で自分は何ができるのかと悩んでいた時、そばにあった素材でアートしてみたら、こりゃ面白いじゃん、とサクサク作品が仕上がりました。ダンボールや新聞紙、色紙などでした。

なんだ自分にもアーティストの才能があるんだ、と遅まきながら感じたものでありました。その後、ハンティングされた会社に移籍しましたが、仕事でアーティストとしての発表のチャンスはないままで来ました。

エロい課題、〇〇ティッシュ

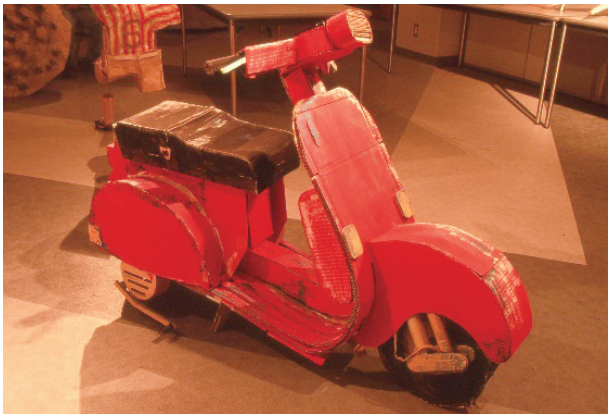
大学に教員として戻ってきた初年度に任された授業では、時代に即した課題が必要だと思い、その年に出題された某会社の就職課題を課しました。大変エロ面白いものができましたが、毎年出題を変えていく形式では長続きはしないと思ったのであります。

また学生時代、デザイナーとはアイデアを考え、それを表現して社会に伝えるものだと思っていたので、自分自身にアーティストの才能があるという感覚は全くなかったのです。当時の商業デザイン専攻学生もその様な考えを持っている同級生は私だけではなく少なかったように思います。

気づいていない才能を気づかせる

就任２年目に視覚デザインの学生にもアーティストの才能があるということを気づかせるために、使用済みダンボールを使うという制約だけで立体、または半立体の作品を課しました。

時代もエコロジーに関心を持つ様になっていたので、素敵な作品が出来上がりました。１回目は偶然にできたすごい作品だなあ、と驚いているうちに写真に残すことを全く忘れてしまいました。偶然ではないと気づいて、２回目以降はこれらの作品はクラスだけでなく展覧会を開いて学内の人にも見てもらおうと早速開催しました。

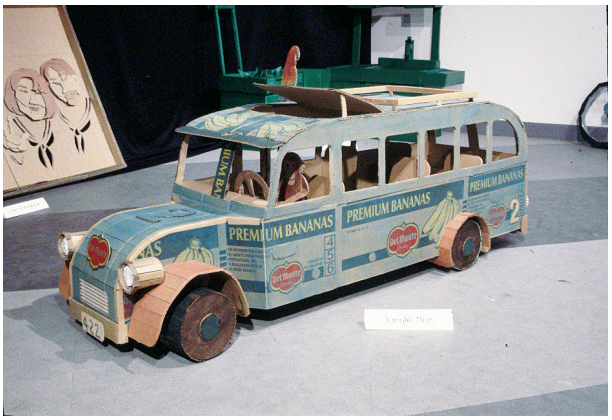


1998 関谷奈々

［キーワード］使用済みダンボールによるアート作品　才能に気づかせるアーティスト・デザイナー教育　エコロジーとアートの行政とのコラボレーション

使う素材を使用済みダンボールと限定し、このひとつの素材に、切る、折る、曲げる、剥がす、編む等の表現方法があること以外はあえてテーマを設けずに自由に制作させました。１年生に課題説明をする時は過去の作品を見せ、素材の持つあたたかさと表現方法を伝えるだけで十分でした。感性豊かな学生達の想像力と創造力がぶつかり合う表情がすぐに見て取れました。まさに名作が閃く瞬間です。あっという間に驚く様な名作が次々と産声をあげました。（ある程度の大きさの作品を制作するので、単に手先だけはなく体全体を使うことで今後の作品制作のスケール感に活かせることができました。）

1999 会場入り口



1999 川崎由美

2000 会場風景

2003 三宅優子

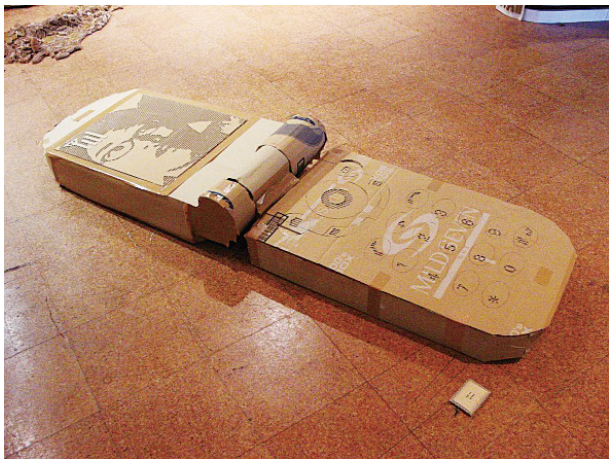
2008 ポスターにされてしまったくどう先生

最初は教室内で始めた制作ですが、机の上だけでは収まらず、教室の床、廊下、隣の専攻の教室へと、どんどん広がり制作場所を集会ホールから研究所棟展示ホール、美大ホール前エントランスへと移しま

した。制作場所や時期が移るたびに暑い、寒いのクレームもありましたが、温度管理のできるスペース（集会ホール、アートベース石引）を探してからは学生の制作展示満足度メーターの針はレッドゾーンまで振り切れているようです。

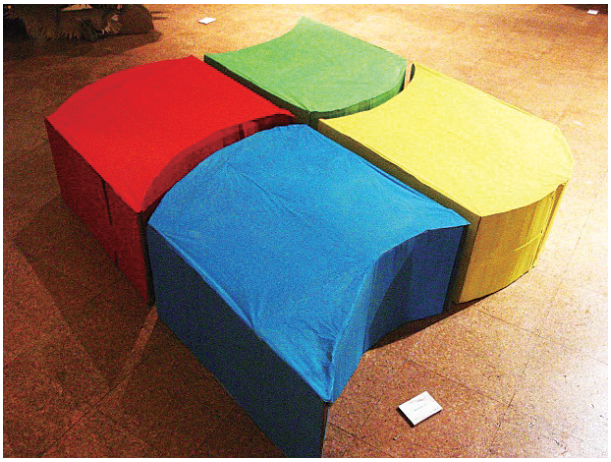
学生作品はテレビCMと同じように時代を映す鏡だった

テーマをあえて設けなかった当初10年間は任天堂のゲーム機、ガラケー携帯電話やウィンドウズ'95のシンボルマークなど時代と文化を感じとれる作品がテレビＣＭのように次々と現れました。



2006 高桑哲也

2008 案浦芙美



2009 加藤大智

立派な展示会場に昇華した

10数年後、金沢市環境局環境政策課温暖化対策室から「エコ」をテーマに金沢市民芸術村でのイベント「かなざわエコフェスタ」の開催で展示させて頂く運びとなり、私たちは学外へ飛び出すことができました。芸術村での開催は天候に左右されることもあり、展示会場も４年前から金沢駅東地下もてなしドーム広場へ移ることになりました。

2015 かなざわエコフェスタ会場風景

2015 エコフェスタワークショップ

2018 教員作品展

この年はあの北陸新幹線開業も手伝って、市民だけではなく県内外や海外の方にも見ていただける様になりました。また数年前から石引商店街にある温度管理のできるアートベース石引で制作し、石引夏祭りに合わせてプレ展示する様にもしました。

エコをテーマに制作していたここ何年、もう一度時代を映す作品が出てくると思い、テーマを戻して自由に制作させたら、またびっくりする様な作品が生まれました。

視覚デザインの学生と私だけが知っている作品達はもっと陽の目をみるべきだと思い、昨年に引き続き21世紀美術館での教員作品展で再度展示させていただきました。

視覚デザインの学生達や多くのアドバイスを頂いた専攻内外の先生、事務局、金沢市の関係の皆さまに熱く厚くアツーク、この誌面を借りて御礼申し上げます。みなさーん、こんなに素敵で楽しい時間を頂いて、本当にありがとうございまーす。

附記

本論文は平成30年度奨励研究の成果の一部である。

（くどう・としゆき
視覚デザイン専攻／コミュニケーションデザイン）

（2018年11月７日　受理）

2017 教員作品展

2018 アートベース石引